

実施結果報告書

1. 学校名 : 京都市立西賀茂中学校					
2. 学習名称 : 探究学習					
3. テーマ : なぜ市バス特 3 7 号系統は誕生したのか					
4. 実施教科 : 道徳、総合的な学習の時間					
5. 関連単元 : キャリア教育					
6. 実施単元数 : 1 時間 (総合的な学習の時間 30 時間の導入として)					
7. 学年	2 年	8. クラス数	4 クラス	9. 生徒数	151 名
10. 実施内容 (1) 教材について 市バス特 3 7 号系統は、平成 2 5 年から京都市の北部、西賀茂・柊野地域を走るまだ新しいバス路線である。現在も、この路線を維持するべく、利用状況調査や広報活動など、地域の方々の取組が続いている。その背景には、西賀茂車庫以北の地域を走る公共交通がこれまでなかったことがある。市バス特 3 7 号系統が開通した背景にある地域の人々の思いを知り、郷土を大切にするとはいどのようなことかについて考えるきっかけを持ってほしい。さらには、20 年後、自分にとっての西賀茂の地域をどのように見通し、自分や地域に住む人と共に持続可能な地域づくりを考え、行動してほしい。そこで、地域の活性化、持続可能な地域をつくるために、地域の人々がバス路線に込める思いを、11 年にわたる取組から明らかにする。 当初、この教材を 1 年生の総合的な学習の時間における探究学習で活用するべく企画していた。しかし、1 年生の発達段階を鑑みるに、地域に出てフィールドワークを行い、課題に対する必要な調査を行ったり、調査した結果を分析・考察したりする学習をこれまで経験しておらず、まず 1 年生の段階では、それらの知識・技能を習得する学習を実施することを優先した。一方で、2 年生では、社会科における「地域の在り方」単元学習を既に行っており、地域の課題を発見し設定したり、その解決のために情報を収集、調査、分析、考察したりする学習を終えていたので、今後の探究学習につなげるための取組として、本学習を導入した。ただし、3 年生で行う探究学習の導入として、この内容を道徳科の学習を位置づけた。					

(2) ねらい

※道徳科としての内容項目：C-16 郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度

- ①自分が自分だけで存在しているのではなく、家族や社会に尽くした先人や高齢者などの先達によって自分が支えられて生きていることを自覚し、それらの人々への尊敬と感謝の気持ちを深める。
 - ②郷土や地域を愛し、積極的・主体的に関わり、郷土のために自分ができることは何かを考え、郷土の発展のために自分が寄与しようという意識を高める。
 - ③地域の人々との人間関係を問い直したり、地域社会の実態を把握させたりして、郷土に対する認識を深め、郷土を愛しその発展に努める。
- そこで、この学習のねらいを次のように設定する。

地域の人々の特37号系統を代表とする公共交通整備に向かう思いや街づくりへの思いを通して、西賀茂地域に対する認識を深め、地域社会の一員としての自覚を持ち、地域の発展に寄与する態度を養う（地域社会とのつながりを深め、地域の一員としての責任感や協力の精神を育むことを期待する）。

この学習を通じて、次の内容に気付いてもらいたい。

新たなバス路線を開通させる背景に、地域の人々が誰の顔を思い浮かべていたのか。また、バス開通後、利用状況調査結果を踏まえた増便、延伸要望が通り、さらに利用者数が増えたことがあげられる。一方で、利用者数が減れば、この路線が廃止される可能性もあり、そのことを地域住民（生徒）が知っているか、将来の地域の様子がどのようなになると考えるのか、見通してもらいたい。

教材分析シート

大きく変容したのは誰か？
どう変化したか？

低い道徳性

Before

【言動】

ここに記入
別に特37は日ごろ使わないから、関心が無い

【心情】

バスが無くて、車で送ってもらえるから問題ない
今の自分には関係が無い

何がきっかけ？

なぜ特37を走らせるのか？
↓
自分が高校生や社会人になったとき、自力で通わねばならなくなった時特37がなくなっていたら家族が車で送ってくれる時間を他の事に充てれば、家族は何ができた？（＝機会費用）

高い道徳性

After

【言動】

自分の町から学校や仕事に通えるようにしたい→もし特37が無くなっていたら、地域から出ていく人もいるかも（不便だから）
20年後の西賀茂の町はどうなっているだろう

【心情】

地域が持続可能な形で居続けるためには、何より人が安心して暮らせる環境を整備しなければならない。例：交通、防災、教育＝インフラ
もし特37が将来無くなれば、町の発展は…

【道徳的価値】

自分が生まれ育った地域や住んでいる地域に対する愛着や誇りを持ち、その発展や美化に貢献しよう

中心発問： 地域の方は、なぜ特37号系統を走らせるのか、地域の方の20年後への思いとは何か？

(3) 評価

地域の取組に関心を持ち、地域社会の一員としての自覚を持ち、地域の発展に寄与しようとする道徳的実践意欲がみられたか。

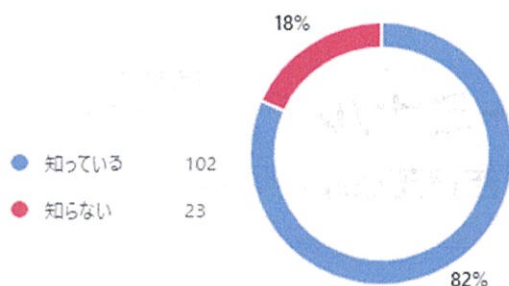
1 1. 学習のながれ：

(1) 事前アンケート

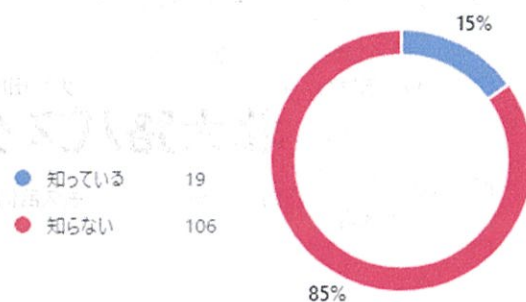
- ①市バ斯特37号系統を知っていますか？ 知っている。 知らない。
- ②市バ斯特37号系統の愛称が「とくみな」だと知っていますか？
知っている。 知らない。
- ③市バ斯特37号系統を利用したことはありますか？ ある。 ない。
- ④「ある」と答えた人について、どのくらい利用しましたか？
ほぼ毎日（5日以上）利用している。
週に3・4日利用している。
週に1・2日利用している。
月に3・4回利用している。
月に1・2回程度利用している。
年に数回（3回以上10回未満）利用している。
年に1・2回程度利用している。
過去に数回（3回以上10回未満）利用した。
過去に1・2回使った。
- ⑤「ある」と答えた人について、何の目的で利用しましたか？（複数回答可）
通学（休日の部活動での利用も含む）のため。
塾や習い事に行くため。
買い物に行くため。
遊びに行くため。
雨の日に歩くのが大変だったため。
荷物が多かったため。
その他（⑥にて記述回答）
- ⑥「ある」と答えた人について、主にどこからどの区間を利用していますか？
（記述回答）例：〇〇（バス停名）～◇◇（バス停名）
- ⑦ ⑤で「その他」と答えた人は、利用目的を具体的に教えてください。
- ⑧「ない」と答えた人について、将来（今後）、特37号系統を利用する可能性はありますか？ ある。 ない。
- ⑨ ⑧で答えた理由を具体的に教えてください。
- ⑩現在、市バ斯特37号系統は本格運行されていますが、もし、利用者数が減少すれば、減便したり廃止されたりする可能性が出てくることを知っていますか？
知っている。 知らない。
- ⑪市バ斯特37号系統は、私たちの生活にとって必要だと思いますか？
非常に必要だと思う。 必要だと思う。
あまり必要だと思わない。 全く必要だと思わない。
- ⑫市バ斯特37号系統を利用したことが「ある」と答えた人について、どのようになれば、もっと市バ斯特37号系統を利用されますか？具体的に教えてください。（記述回答）
- ⑬市バ斯特37号系統を利用したことが「ない」と答えた人について、どのようになれば、市バ斯特37号系統を利用されますか？具体的に教えてください。（記述回答）

(2) アンケート結果：回答数 125

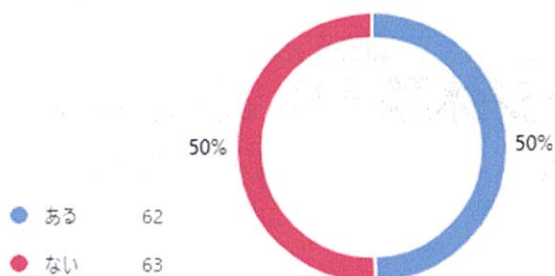
1. 市バス持37号系統を知っていますか？



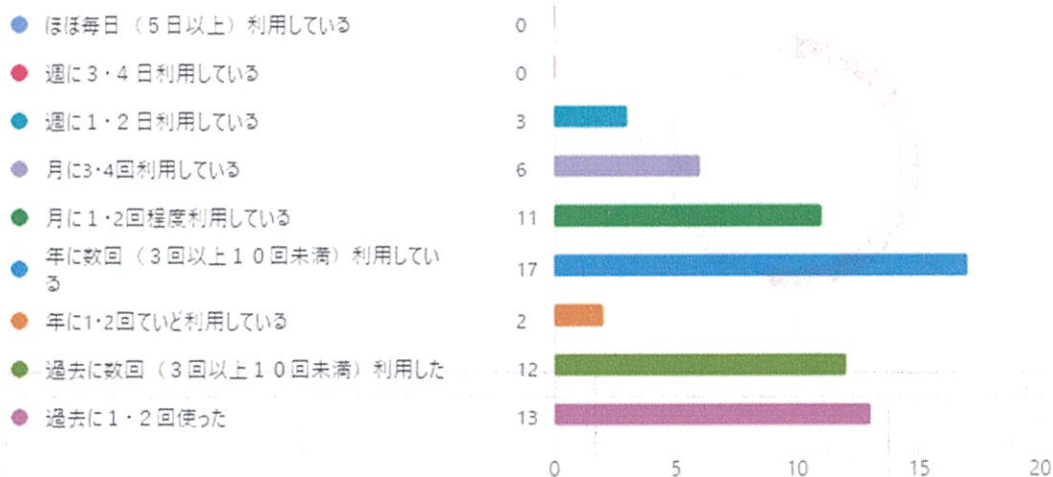
2. 市バス持37号系統の愛称が「とくみな」だと知っていますか？



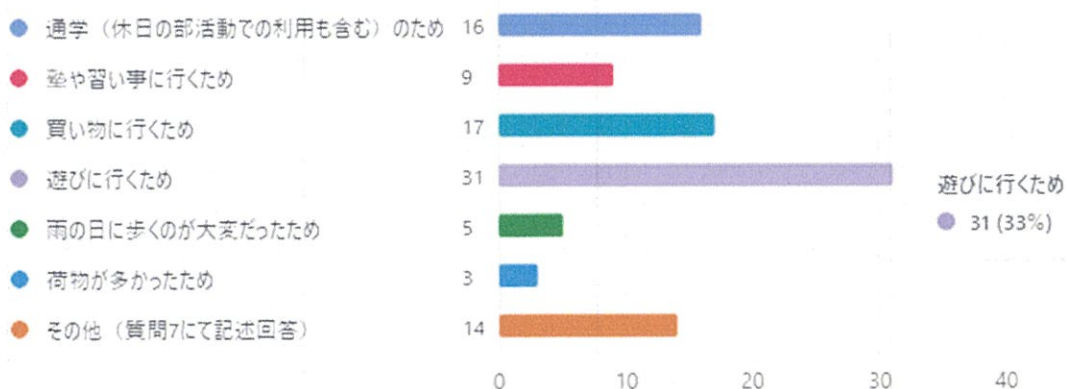
3. 市バス持37号系統を利用したことはありますか？



4. 「ある」と答えた人について、どのくらい利用しましたか？



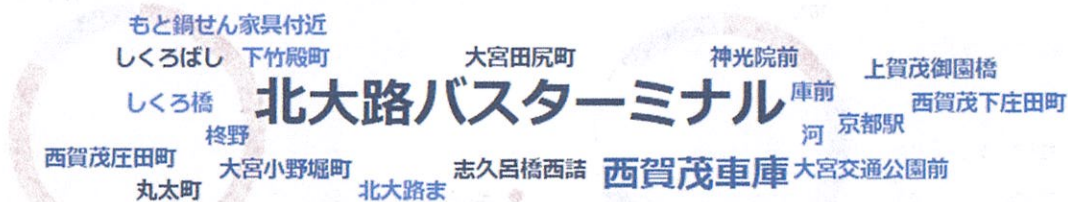
5. 「ある」と答えた人について、何の目的で利用しましたか？



6. 質問「ある」と答えた人について、主にどこからどの区間を利用していますか？（記述回答）
（バス停名）

例：○○（バス停名）～◇◇ 60
応答

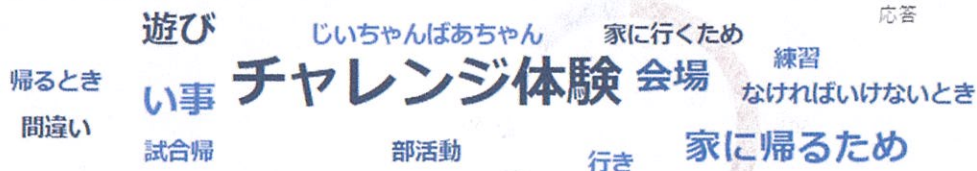
31回答者（52%）この質問に 北大路バスターミナル回答しました。



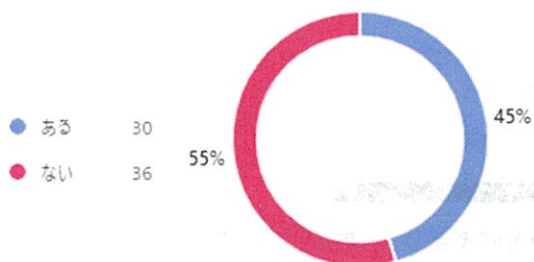
7. 質問5で「その他」と答えた人は、利用目的を具体的に教えてください。（記述回答）

3回答者（19%）この質問に チャレンジ体験回答しました。

16
応答



8. 質問3で「ない」と答えた人について、将来（今後）、
特37号系統を利用する可能性はありますか？

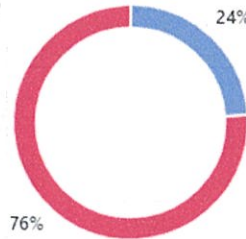


質問8で答えた理由を具体的に教えてください。

【「ある」と答えた理由】	【「ない」と答えた理由】
あるとは断定できないけどワンチャン使うかもしれないからあるにした。	高校に行くときなどに使うかもしれないので
イオンモールに行きたいときに乗るかもしれないから	習い事で使うから
いろいろなところに行くかもしれないから	出先で利用するかもしれないから
お出かけや遊びに行くときに使うかもしれないから	将来移動で特37号を利用する可能性がないとは言えないからです。
これからどういうことをするか分からないから	西賀茂中学校から近いから
しばらく京都に住むよていだから	多分あると思われる
そもそも気にしていないから実は乗ったことがあった、という可能性や、今後どこへいくのか、そのために乗るバスが何かは今現在では見当もつかないから。	大人になったらいろいろなところに行く可能性があるから。
たぶん	通学などにつかうかもしれないです。
バスを利用することがあるから	通勤とか通学で使うかもしれないから
よくバスにのるから	特37号系統で行く場所があるかもしれないから
わからないけど、通学に使うかもしれないから。	部活の移動の中で使う可能性があるから
移動で使うかもしれない	北大路に買い物によく行くから
移動に使う可能性があるから	目的の場所につくために使うかもしれない。
家の近くまでいくから	目的地に行くために使うことがあるかもしれないから
家の近くを過っているから。	友達の家のある区域を通るからです。
	1時間に1本だから、そんな予定はないと思うから
	1時間に一本
	あまりバスに乗らない
	あまり家の近くで見ないし、行きたいところに行けないから。行く場所が限られている。
	いかないうから。
	止まる場所を知らんから。
	そこに行かない
	そこに行かないから
	だてどこからどこまで行くのかわからないから
	他のバスのほうが時間が早く地下鉄乗り場などにいけるから特別特37でしか行けないところがない限りのらないと思う
	バスが1時間に一回ぐらいしか来ないから
	バスを使う機会がないから
	はかにもっと使えるバスがあるから
	ほかのバスで行けるから
	遠くまでいくバスに乗るから
	家がそこらへんじゃないから
	家がそこらへんはないから
	公共交通機関が嫌いだから。
	最寄駅に37番しかこないから。
	バスを使う機会がないから
	特37が行く場所に行く予定がないから。
	特37が止まるバス停の近くのところに行くようなことは計画していないから
	特37が通るバス停がどこも家から遠いから、また本数が少ないから
	特37が行くバス停などに行く予定がないから。
	思ったから。
	終野に住んでいないから
	部活で使うときに特37は乗ったことないから

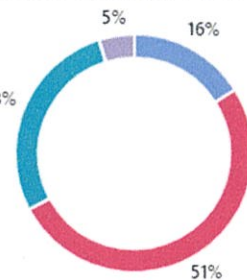
10. 現在、市バス特37号系統は本格運行されていますが、もし、利用者数が減少すれば、減便したり廃止されたりする可能性が出てくることを知っていますか？

● 知っている 30
● 知らない 95



11. 市バス特37号系統は、私たちの生活にとって必要だと思いますか？

● 非常に必要だと思う 20
● 必要だと思う 64
● あまり必要だと思わない 35
● 全く必要だと思わない 6



12. 市バス特37号系統を利用したことが「ある」と答えた人について、どのようになれば、もっと市バス特37号系統を利用されますか？具体的に教えてください。

16回答者 (24%) この質問に 時間回答しました。

68
応答

観光客 道徳 授業 地域 上賀茂 国民 時刻表
ポスター 時間 停 学校 西賀茂 しんどい日
北大路バスターミナル 四条 1 観光者 京都駅 京都産業大学方向
重きを置いた場合

市バス特37号系統を利用したことが「ある」と答えた人について、どのようになれば、もっと市バス特37号系統を利用されますか？具体的に教えてください。（記述回答）

1時間に1本ほどしかないので、本数を増やしたほうが良いと思う。	バス停を多くする	家に帰るのに西賀茂車庫より距離が短くなってすぐに帰れるから	西賀茂の人口が増えたら、増便したいと思う。
本数を増やす	ポスターでの呼びかけ 学校で伝える 道徳の授業の教材にする	外国の人にもたくさん乗れるようになったら、増便したいと思う。	増便する、ポスターなどで特37系統があることを宣伝する
本数を増やす	ポスターをはる	学校の前に通ってほしい、しんどい日などに特37で登校したい。	増便する、ポスターなどで特37系統があることを宣伝する
本数を増やす	ポスター制作をする	観光客も使い、地域の人にとって迷惑になると思ったので、観光客と地域の住民を分けるように工夫する。	存在を主張する
1時間に一本ぐらいの回数だからもっと頻りに運行すると利用客が増えると思う	もう少ししこしこ入る所にいける	距離をのばす	停まる駅を多くする
回数を増やす	もう少し時間をずらしたり本数をふやす	京都駅までの。	停車駅が多くなれば常にご利用したいと思う
便の時間を一時間に一本ではなくもう少し増やす	もっといける範囲を広める。例えば、京都産業大学方向や上賀茂神社は方向など。	行き先を延長する	特37の魅力を書いたポスターを作る
便を増やす	もっといろいろなバス停に止まるようになってほしい。	四条まで行ってほしい	特37の良いところを知ってもらうため、各学校でポスター作りなどたくさんの人に知ってもらえるようなことをしたらよいと思います。
行き先を増やす	もっとバスの本数を増やしたほうが良いと思う。特37は一時間に一本ぐらいしか来ないから。	市バス特37の本数をもう少し増やしてほしい	泊まるバス停の数を増やして、思い切って増便する。
便を増やす。一時間に一本しかない	もっとバスの本数を増やす	止まるバス停を増やす	発車本数を増やして発車時間を分刻みにするといふと思う
便数が増える（学校に行く時間に合った時間の便があればもっと増えるかもしれないです。）	もっとバスの本数を増やす	止まるバス停を増やす	発車本数を増やして発車時間を分刻みにするといふと思う
赤いバスを1時間に何本か増やしたい。もう少し運行距離を長くする。	もっとバス停を作るべきだと思う	時間をふやす	別にほかにもバスがあるからいいと思う
駅を増やす	もっと駅数を増やす（上賀茂や西賀茂に）	時間を増やしてもっと多くの人に停まるようにする。	北大路バスターミナルより先（四条や京都駅など）に延伸すると乗る人が増えると思う
バスの時間をもっと増やしてほしい	もっと止まる場所を増やす。	時刻表があるとおもうけどバスだから仕方ないことだけど予定通りの時間にバスがきたら利用が増えると思います。	乗るのが遅いから運転手を多くする（30分に一回とか）に増やす。
バスの量をもっと増やす	もっと止まる場所を増やす。	少しバスの運転時間をずらす	アナウンスを充実させる。
たくさんの人に便利さを伝える。	もっと人が多いところを通る。	上賀茂にもっと遊ぶところなどのみんなが行きたくなくなるような場所を作ったらい。	バス停を増やす。
どんなバスか、どこへのバスか、などの知識は全くない状態での意見です。国民に置きを置いた場合、あって損するよりなくて困るほうが多いと思う人が多いと思うから。	もっと頻りに通るようにしたいと思っています	上賀茂にもっと遊ぶところなどのみんなが行きたくなくなるような場所を作ったらい。	バス停を増やす。
どんなひとが使うかはわからないけど使っている人があるなら必要だと思う	より車内環境が良くなったら	乗ってもらえるように、住宅地を増やして乗ってもらうようにする。	運賃を安くする
バス停とかバスを増やす	運行時間を増やす	人が多い時間にバスの数を増やす	数を多くしたらいいと思うし、四条などに行くなら乗る

13. 市バス特37号系統を利用したことが「ない」と答えた人について、どのようになれば、市バス特37号系統を利用されますか？具体的に教えてください。（記述回答）

5回答者 (9%) この質問に 場所回答しました。

56
応答

機会 学校 範囲 交通手段 大宮田尻町 条
設備 部活 伝え 場所 バス停 移動 ポスター 京都駅
メリット 北大路 市バス グリーン車並み 目的地 自転車

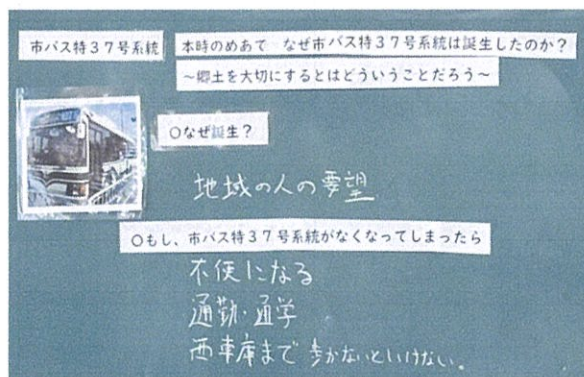
市バス特37号系統を利用したことが「ない」と答えた人について、どのようにすれば、市バス特37号系統を利用されますか？具体的に教えてください。（記述回答）			
1時間に1本ぐらいで乗りたいたいけど待つ時間が長くて結局乗らないからもう少し1時間ごとにバスの数を増やしてほしい	もっと特37についてしてもらおう。 特37の利点などをポスターにかけばいい	自分が行く地域まで行ければ使う	知名度を上げる
37の行く場所が知られたら。	もっと範囲を広くしたいと思う。	自分が知っているようなバス停に止まるようになったら	特37がとまる場所に新しい場所をつくってくれたりもっとバスが通つところを増やしてくれたりしたら利用します。
いろんなところに行けるようにしてほしい。場所が限られている	わからん？	自分の習い事の近くに特37のバスが止まってくれたら。	特37号で移動する機会が増えたら利用します。また、特37号で移動できる範囲によく利用する方があれば利用します。
そちらの方面に行くことがあったら、高校の場所によって通学で使うかもしれない	遠くまでいく。	車と自転車が増えた時	特37号系統についてもっと詳しく知ってもらい、魅力を伝えていくことや、知らない人のためにこのバスが行く経路の確認
それに乗るメリットが得る以外にもあるなら使うかもしれない	急いでる時など	駅周辺まで来てくれたら使う	特37号系統を使って行く目的地があったら。
どこを走っているのかなどが分からないので、宣伝する。	交通手段がないとき	乗れる時間帯を増やす。	特37番のメリットをまとめてポスターを作ったり紹介カードを作って宣伝する。
バスのこと詳しくないのでごめんない	交通手段がないとき	乗客にとって乗る理由をつくる	部活の移動の中で特37に乗って移動することがあれば利用する
ほかの目的地が増えるから乗ることはあると思う。	広めたりみんなが行きそうなところにバス停を置く	数が増えたり身近にとおなら	便数が増えたら
ポスターでの呼びかけ 学校で伝える 道徳の授業の教材にする	行ける範囲が広がる。	西賀茂側だけではなく、ほかにもいろんなところに回るといいと思います	北大路だけでなく四角や京都駅にもいくようにすればいいと思う
まず市バス特37号系統をよく知らないから、家でまとめてみようと思います。	行先を延長してほしい。	西賀茂中学校前があればみんなが乗るとおもいます	北大路バスターミナルにとまれば利用されるとおもいます
みんなが移動する場所を運行する	使おうと思ったつかう。	前述したようにどのようなバスなのか、全く存じ上げないので分かりません。	本数をもっと増やすか、通るバス停を増やすといいと思います。また、最終バス停を北大路までじゃなくて、北大路からまた出町駅とかもう少し遠くまでいくバス停だともっと利用が増えると思います。
もう少し行くところを増やして、時間を増やした方がいいと思う。	使ってみよう	大きく宣伝する	本数を増やす
もっといろんな人に存在を知ってもらおう	市バスのルートが変われば	大宮田原町に止まるなら利用します。	無賃乗車可能
無料で乗れる。グリーン車並みの設備。ドリンクのサービス。ご飯のサービス。温泉完備。好きなところでおろしてくる。バイクが乗る。バスガイドがいる。ビューティ形式。専用のシェフがいる。泊りもできる。一つ一つ個室。大部屋もあり。トイレ完備。	無料なら乗る	利用しやすくなったら	

(3) 本時の展開（発問のみ抜粋、別紙にて指導案資料、読み物資料「柗野地域・市バス37号系統沿線だより（以下「沿線だより）」）

○皆さん、市バス特37号系統を利用したことがありますか？

・ある ・ない

→アンケートを振り返り、市バス特37号系統について知識を共有する。



能力があることを知る。

○なぜ市バス特37号系統は誕生したのですか？

→地域の人の要望 e. t. c.

○もし、市バス特37号系統が無くなってしまったら、20年後の西賀茂地域はどうなっているだろう？

→通勤・通学が不便になる。

西賀茂車庫（近隣のバスターミナル）まで歩かないといけな。

※ちなみに、西賀茂中学校から西賀茂車庫まで歩いて徒歩15分。

遠い人（公共交通機関の乗り場から）は不便。

車に乗らないと生活できない。ガソリン代がかかる。

本時のめあて

なぜ市バス特37号系統は誕生したのか？～郷土を大切にすることはどういうことだろう～

◇なぜ誕生したのかについて、「沿線だより」を読みながら、地域の方のバスを利用できるようにしたかった思いや利用者数を増やしたい思い、さらには利用者数が減れば、減便・廃止の可



○「沿線だより」を書いた、地域の方の思いは何ですか？



○「沿線だよりを書いた、地域の方の思いは？

- ・利用者増やしたい
- ・便を増やしたい
- ・たくさんの人にのってほしい
- ・たくさんの人に知ってもらいたい

→利用者を増やしたい。

バスの便数を増やしたい。

たくさんの人に乘ってほしい。バス路線が減便されたり、廃止されたりしないようにするため。

たくさんの人に知ってもらいたい。特37号系統をもっと利用してもらうために。

○バス路線を開通させるとき、地域の人々は、誰の顔を思い浮かべていたと思いますか？

→学生（中高生から大学生まで）、主婦、サラリーマン、西賀茂地域に移住を考えている人、シルバー（高齢者）世代、観光客

○あなたは「終野地域・市バス37号系統沿線だより」の発行者です。次号を発行するならどのような記事を書きますか？

1 班 ターゲット層： 学生

- ・ 京都産業大学に行く学生には便利
- ・ 西賀茂中学校で試合するとき便利
- ・ ヒラギノグラウンドへ行く学生に便利
- ・ バイクなど乗り物を持っていない学生が多いためつかえる

※他クラスでの学生をターゲットにした意見

課題 一時間に一本しかない バス停が少ない

伝えたいこと バスがなくなってしまうと通学に使えなくなり部活終わりで疲れていても自転車や歩かないといけなかったりまた、車の人も毎日送れるとは限らないのでその時に自転車がダメだったりしたとき、バスでしか手段がなくなってしまうのでそうなったときにバスしかないので減便、廃止を防ぐことが大切。

その理由 まずは通学で使う人利用することで、通学の時間と帰りの時間にバスが増えるかもしれないので、まずは通学や帰りに多く利用する。利用人数が増えるとバス停や本数が増える可能性があるのもまずは毎日利用する、中高生、大学生がたくさん利用して行けばよいと思う。

2 班 ターゲット層:サラリーマン

- ・バスがあまり通ってない地域を中心に運行しているのでその地域のサラリーマンの人はバスで北大路まで行ける。
- ・最終バスと始発バスの時間も10時と7時まであって、遅くまで仕事ができる。
- ・特37は平日と週末で時刻表があまり変わらないので、わざわざ時間をずらす必要がない。

※他クラスでのサラリーマンをターゲットにした意見

課題:利用者が少ない

- ・特37を通勤に使ってほしい
→北大路バスターミナルに1本で行ける。そこから仕事に行けばいい。
- ・特37を使わずに車で仕事に行く人が多い
→車だと事故ってしまう確率が高いし。プロの運転のほうが安全。
- ・お金がかかる
→通勤で車を使う人が多いと思うけど車だと一年間で考えると。
車の維持費:車両代 42万円 駐車場代 12万円 車検、保険、自動車税 16万円 ガソリン、整備費、駐車場代 17万円
合計で87万円
だから、バスと地下鉄を使えば安く住むことができる。

自然を見ることができて、仕事で疲れた目が休めることができる。

3 班 ターゲット層:西賀茂に移住を考えている人

特37は、便利な交通手段として使われています。このバスは、主要な駅や商業施設へのアクセスが良好で運動やお出かけにとっても便利です。また、特37が通る道は自然や風景を楽しむことができます。このことから、移住を考えているならアクセスのいい特37を使うといいと思います。

※他クラスでの西賀茂に移住を考えている人をターゲットにした意見

デメリット…本数が少ない→一時間に一本

メリット…ヒラギノから西賀茂車庫の間では160円

他のバスより、北大路バスターミナルに行くまでの時間が短い。

西賀茂に来て、仕事の勤務先にアクセスしやすい。

町一周できる。

どこに住んでもバスに乗りやすい。

通常のバスが通らない道も通る。

注:現在は、柊野～西賀茂車庫間の160円区間は無くなり、通常運賃の230円で全区間統一されている。

4 班 ターゲット層:主婦

特37号系統

子供ずれだったら安くで公園に行ける
賃金

北の区間のみ普通賃金よりも70円やすい160円で乗ることができる。

主婦はカロリーに敏感

カロリー消費

210

近くて便利

例井ノ口町の時刻表

特37号系統しか通っていない

T37	
特37	大宮交番公園 北大路バスターミナル 17:00 Kitazoji Bus Terminal
T37	
特37	梅野 17:00 Hiragino

※他クラスでの主婦をターゲットにした意見

課題→バスをつかってもらうには

**伝えたいこと→特37は北大路バスターミナルにも行く
から気軽に出かけたいときや買い物などにおすすめ**

理由→忙しい中で歩いて買い物のやめにスーパーに行くのはめんどくさいと思い、時間もかからずに帰りも荷物を持たないでいいなど疲れずにできるから

5 班 ターゲット層:観光客

- ・ピクニックツアーで自然豊かなところをめぐっていく。
- ・バスガイド

※他クラスでの観光客をターゲットにした意見

有名なところ、良いところを伝える

- ・鴨川
- ・神社が多い

⇒外国観光客だった場合、日本の文化がわかる

- ・自然がいっぱい
- ・乗り換えで河原町方面に行ける（本能寺や八坂神社など）

- 住宅街の近くにもあるので足の悪い年寄りに人でも利用しやすい。
- 車を使うより公共交通機関を使ったほうが運動不足を解消することができる。
- 特37に乗るとほかのバスより停車駅が少ないことから素早く西賀茂車庫に行くことができる。

※他クラスでのシルバー（高齢者）世代をターゲットにした意見

課題：本数が少ない、停留所が少ない、知名度が低い

いいところ：柊野の車が使えない人や歩くのがしんどい人も簡単に西賀茂車庫や北大路駅までいける

⇒このいいところを伝え、利用者を増やし本数も増やしていくことが大切だと思う

○記事を考えることを通して考えた「郷土を大切にする」ということは？

～20年後の西賀茂地域の課題とは？～【振り返り】

→西賀茂の人々が考案した特37系統を廃れさせてはいけなかったと思います。今後、使っていくと思うし、地域の人も利用すると思うから、守っていききたいと思いました。

→西賀茂の地域を大切にするためには、今の西賀茂の良いところを壊さないようにすることだと思います。そして、もっと良いところを私たちの手で増やしていけたらいいなと思います。

→交通の便が悪いから、もっと効率よくバスを走らせ、だれもが住みやすい地域になってほしいと思いました。

→郷土を大切にするということは、その地域向けに誕生したものを利用し、次の世代につなげていくことだと感じました。自分自身、特37はあまり利用しないけれど、特37を使うメリットを見つけてみたり、実際に使ってみたりして守っていききたいと思いました。

→西賀茂地域を大切にするためには、地域みんなの交流を増やし、地域みんなの問題を解決できるようにしたらいいと思う。特37は地域にとってとても大事なものな

ので守っていききたい。

- 私はよく四条（京都市の都心部）に出かける時に、9系統に乗るのですが、観光地に毎回停まるため、ものすごく混んでいていつも大変なのですが、終野地域だからこそあまり混んでいないというのは、特37のいいところだと感じました。また、利用する機会があれば乗ってみたいと思います。
- 今日の学習を通して、西賀茂地域に住んでいる人だけでなく、他の人にも特37系統のメリットや誕生した理由などを伝えていくことが大切だと理解しました。私は特37系統に乗ったことはありますが、そんなに頻繁に乗っているわけではないので、また見つけたら乗ってみたいです。
- 西賀茂地域は自然もたくさんあり、いい場所だけど、少し交通の便が悪いから、もっといろんな場所に移動できたり、便利に交通機関を使えるようにしたりする。
- 郷土を大切にすることというのは、その場所一つ一つをしっかりと住民や地域の人が愛していくことだと思いました。また、20年後の西賀茂地域の課題は、バスだったり、公共交通機関が関わってきたりするんじゃないか、と思います。
- 特37号系統の良さと悪さを考えて、これからの西賀茂に生かせると思いました。これからは、バスは大人より子供の方が利用するのが多いと思うので、子供が多くなるような取組をしたらいいと思いました。
- 大切にするために、もっと地域の事を知り、地域のものを利用していくことが大切だと思いました。
- 西賀茂の地域を大切にするために僕たちにできることは、西賀茂の良さを伝えることです。観光地を増やして、観光客を呼んで、もっと西賀茂を発展させていきたいです。
- これからの西賀茂を大切に守っていくためには、今ある交通の便や時間帯などの課題と向き合い、改善していくということが大切だと理解できた。今日の話を聞いてすぐに改善とまではできないけれど、今回の授業でやったように、簡単なポスターや壁紙などで宣伝的なことはできるので、やっていきたい。
- 今日の授業を振り返って、今まではバス自体あまり乗らないが、近くに西賀茂車庫があるので便利だと思っていたが、特37も使うときがあったら使ってみたいなと思った。
- 西賀茂地域を大切にするためには、特37系統の利用や、このバスについてのことをいろいろなところに広めていくことが大切だと思った。20年後の西賀茂地域では、特37系統の利用の本数の少なさが課題になると思った。
- 今回の授業を通して、西賀茂地域の課題は、交通網の悪さだと思いました。西賀茂車庫以北のバスは特37ぐらいしかないし、それも1時間に一本くらいしかなくて、交通の便が悪い。だから、もう少し交通網を良くした方がいいと思いました。
- 西賀茂を大切にするために、自分の地域の悪い所だけでなく、良いところをもっと見つけることが大事だと思いました。いいところをたくさん知った上で、ほかの地域の人に地域の良さを伝えていくことが何十年後も西賀茂地域が盛んにするために重要なことかな、と思いました。
- 今回の授業で、西賀茂地域を大切にすることは、すなわちこの地域を発展させて、ともに進化していくことでもあると思った。また、20年後のこの地域の課題は、今と同じように地球温暖化に関することが含まれていると思う。これからも「とくみな」と一緒に生活をしていきたい。

- 特37は一部の人しか使わないけど、これがあることによって不便な思いをせずに過ごせている人がいるので、無くなって欲しくないと思いました。今利用者が少なく特37が無くなってしまふかもしれないので、利用できる機会があれば利用してみたいです。
- もっと西賀茂の良いところを伝えたり、自分は西賀茂を大切にボランティアに参加したりして、地域の環境を守っていけるようにする。
- 西賀茂を大事にしようと思ったら、まずしっかりと西賀茂の良さを認めることが大事だと思う。良さを知ることによって、その良さを広めていろいろな人に知らせる。
- 西賀茂を大切にするために、困っていたら助けるなど自分が今できることをしていくと、地域全体が良くなっていくと思う。
- 自分の郷土を大切にすることというのは、自らで考え、郷土のために行動することそのものなのではないかと思いました。私の考える課題は、急激な少子化だと思います。現に、私の町内には子供がほとんどおらず、9割がたが高齢者だからです。
- 郷土を大切にするためには、バス停にはゴミ箱が無いから、たまにお菓子のごみやペットボトルなどバス停にポイ捨てされています。ゴミが出たなら自分で持って帰るなど、行動することが大切だと思います。
- 西賀茂の良い部分を言うより、悪い部分を言うことの方が先行してしまう人が大半でしょう。つまり、西賀茂を良くしたければ、よい部分を増やす足し算より、悪い部分を減らす引き算のほうが手っ取り早いのです。なので、悪い部分を減らして方がいいと思いますね。20年後の課題は、交通面、高齢化、ちょっとした過疎が挙げられるかと思います。
- 私は、特37についてあまり知らなくて、あっても無くても同じだと思っていましたが、いろいろなターゲットに対してもメリットが多いなと思って、特37をもっと多くの人に知ってもらうために、ポスターなどを作って見てもらうのが良いと思いました。20年後は、今よりもっと交通網がよくなるといい。
- たった一つのバス停が、大きく西賀茂の人々に役立っているのだと改めて感心しました。これから自分もこの特37号を使うにあたって、より使いやすく快適にできるような活動を促進できるよう、頑張っていきたいです。
- 今回の授業を通して、西賀茂には特37のバスのようにあまり知られていなくて、利用者が少ないものがたくさんあると思うので、それらがもっと便利になるように、自分たちが普段から利用したり、工夫し、そのようなものが将来無くなってしまったり、一部の人が不便になったりすることが無いようになってほしいと考えました。
- 西賀茂を大切にするために、これからは意識をして、遊びに行くときなどにバスに乗ったり、景観を大切にしたりするようにする。
- 西賀茂の地域を大切にするために、もっと柵野で楽しめることを他の地域の人に広めたり、探したりできると思いました。地域の祭りやイベントに参加することもできると思います。また、ネットで広めることもできると思いました。
- 西賀茂、柵野地域には、スーパーや飲食店が少ないので、今後のことを考えると大宮地域のようにたくさんのお店があったほうが便利だと思います。
- 車で送ってもらったり、近くに西賀茂車庫があったりすると、「とくみな」は必要ないと思ってしまうけれど、自分たちだけで考えるのではなく、地域の問題としてみると、中には足が不自由だけれど、西賀茂車庫が遠かったり車が無くて自由に行

くことができなかつたり、様々な交通問題を抱えている人がいると思うので、この問題を他人ごとと思わずに考えることが大切だと思った。20年後、開発によって田んぼが無くなつたり、移住者が減り高齢者が増えたりするかもしれないので、この町をより便利にしてこの町を盛り上げたい。

→沿線だよりを読んだり、沿線だよりの内容を考えたりして、普段あまり特37号系統を使わないけれど、地域の活性化のために地域の人に親しまれていることが分かりました。沿線だよりを読んで、たくさんのイベントを開催したり、延伸や増便をしたりして、地域の人のための事を考えて運行されているのがすごくありがたいことだなと思ったし、(沿線だよりでは)アンケートを取って地域の人声を聴いて(特37を)使いやすいように工夫されているのがすごいなと思いました。

→今回の授業で、特37がどのようなことで困っているのかが分かりました。20年後の西賀茂地域では、このままだと特37が無くなってしまい、不便になってしまうので、機会があれば使ってみたいな、と思いました。

12. 成果と課題

(1) 事後協議

授業後、見学者が集まり、事後協議を行った。



参加者：京都市都市計画局歩くまち京都推進室担当者3名、京都教育大学名誉教授(歩くまち京都勉強会座長)、京都市交通局運輸担当、北区役所地域力推進室担当者、システム科学(シンクタンク)担当、柊野自治連合会関係者2名、京都市総合教育センター指導主事、西賀茂中学校校長(報告者)

→地域と学校がつながることは、次世代への引継ぎになり、特に公共交通を通じてそれが取り組まれたことは、一つのモデルとなる。

→ボリュームがあつたので、授業時間内に収まるサイズにすることが必要である。

→「沿線だより」の記事を考える際、移住のスキームについては、バスを条件にだけ考えるにはなかなかしんどい。それ以外の条件も示してなら、移住者のイメージを膨らませることができる。そのためにも、「西賀茂の地域はいいよね」といった良さをもっとアピールすることも大切。

→この取組(特37号系統の誘致)がなぜ立ち上がったのか、そのストーリーがあるわけで、それをもっと端的にまとめてもよいのでは。

→柊野は田舎のため、地域の人々の自治連合会への加入率が少ない。授業をきっかけに子供たちが今後加入してくれればと考える。一方で、20年後の西賀茂地域、柊野地域が、鴨川のスペースをもっと良いものにする取組を進め、世界遺産に登録してもらえようような整備を進めていければとも考えている。

→特37号系統を増やす問題に対し、バス運転手不足、いわゆる担い手不足について

も触れられるとよい。

→資料「沿線だより」を読んで、どこに感動した？と尋ね、意見を交流させるだけでもよいのでは。さらには、なぜ誕生したのか、これを資料から読み取るのもよいのでは？あるいは、増便が行われた過程について、実現させるプロセスをしっかりと紹介して、子供たちに「大人もなかなか考えて取り組んでいるな」と感心させるのもよいのでは。

(2) 成果と課題、今後の取組の見通し

地域教材として、市バス特37号系統がなぜ柘野地域に誘致されたのか、それに関わった人々の思いに触れ、郷土への思いを体感することができたのが、まずは大きな成果であった。公共交通機関は、ただ市民へのサービスとして運行されているのではなく、様々な地域の人々の思いに基づきながら整備されていることに、子供たちが気付いてくれたことが大きい。ただし、効率と公正の視点から、利用者数が少なければ減便、廃止もありうること、そのためには利用率を増やさなければならない現実について、自らが何かできることはあるか、20年後の西賀茂地域がどのように変わり、その際特37号系統がどのように運用されているのか、見通してくれればと思う。振り返りにもあるように、子供たちが自分事としてこの問題を捉え、将来西賀茂地域に暮らすのなら、自分にできることは何かないか、あるいはそのように思うだけでもよいので、自分の暮らす街を愛する大人になってもらえればと考えている。

一方で、今回道徳教材として50分の枠に収めるには、内容が盛りだくさん過ぎたこともあり、一つ一つの発問に対して、じっくり考えたり、資料を吟味して読んだりすることができなかった。そのため、子供たち自身で考える意見が、資料の内容のままであったり、日頃の経験に沿ったものがそのまま出てきたりしていた。自分はなぜそう考えたのか、経験と資料からの情報を融合させながら考えを深めることができるよう、資料を読む時間を確保したり、特定の資料を判読する時間を設けたりする必要があった。

また、内容構成が総合的な学習の時間の導入にあたるものであったため、それぞれの項目に1時間ずつ割り当てていけば、子供たちにとって十分取り組むことが可能な分量であったといえる。自分たちの考える沿線だよりの記事とは何か、どの立場の人をターゲットに考えるのかによって、見えてくる問題の方向性が異なるので、それぞれの立場にあった情報を収集し、それらを分析・考察してから記事を考えられるように時間を確保する必要があった。

今後の取組の見通しとして、来年度も新2年生に対して、今回の振り返りを基にブラッシュアップを行った指導案を再作成する。特に、事後協議でも指摘のあった三つの視点（資料「沿線だより」を読んで、どこに感動した？と尋ね、意見を交流させるだけでもよいのでは。さらには、なぜ誕生したのか、これを資料から読み取るのもよいのでは？あるいは、増便が行われた過程について、実現させるプロセスをしっかりと紹介して、子供たちに「大人もなかなか考えて取り組んでいるな」と感心させるのもよいのでは。）に基づき、発問の数を可能な限り減らし、考えを深める時間を確保した指導案を作成する。また、ここから続く総合的な学習の時間における探究学習のリードとして、取組を進めていきたい。

※学習で使用了教材やワークシート、学習風景を撮影したビデオや写真、指導計画書などを添付して提出してください。

第2学年 道徳科学習指導案

京都市立西賀茂中学校

作成者 上畑 直久

1 日 時 令和7年3月11日(火) 第4校時(11:50~12:40)

2 学年・組 第2学年 1組(39名)・2組(37名)・3組(39名)・4組(38名)

3 主 題 名 「郷土・地域社会の一員としての自覚」 C-16 郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度

4 教 材 名 「柊野地域・市バス 37 号系統沿線だより(以下「沿線だより」)

5 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について(価値観)

自分が自分だけで存在しているのではなく、家族や社会に尽くした先人や高齢者などの先達によって自分が支えられて生きていることを自覚し、それらの人々への尊敬と感謝の気持ちを深める。また、郷土や地域を愛し、積極的・主体的に関わり、郷土のために自分ができることは何かを考え、郷土の発展のために自分が寄与しようという意識を高めたい。その結果、地域の人々との人間関係を問い直したり、地域社会の実態を把握したりして、郷土に対する認識を深め、郷土を愛しその発展に努めるようになることを期待する。

特に、地域の人々の特 37 号系統を代表とする公共交通整備に向かう思いや街づくりへの思いを通して、西賀茂地域に対する認識を深め、地域社会の一員としての自覚を持ち、地域の発展に寄与する態度を養う。地域社会とのつながりを深め、地域の一員としての責任感や協力の精神を育むことを期待する。

(2) 生徒について(生徒観)

本学年は、入学時より道徳に限らずあらゆる分野において、「人権」を大切にすることを重視し、指導にあたってきた。そのため、多くの生徒は自主的に考え、行動することができるようになっている。しかし、その一方で、自分自身の言動が自分や他者にどのような影響をもたらすかということを深く考えないまま、自分や仲間内だけが楽しむような無責任な言動をとってしまう生徒もいる。

一方で、彼らは、12月に4日間、チャレンジ(職場)体験学習に取り組んだ。体験を通して、道徳で学んだ価値を裏付けたり、新たな価値を見出したりしている。これらの取組に、多くの地域の方が協力してくださったことを実感していると共に、感謝の気持ちを含め、体験内容をふり返って何を学んだかについて、1年生へ発表している。リアルな経験を踏まえ、自分なりの「働くとは何か」について考え、大きな価値として身に付けることができた。

一方で、地域とのつながり、地域に対してどのような思いを抱いているかについては、よくわからない。アンケート結果を分析し、思いについて把握したい。

(3) 教材について(教材観)

市バス特37号系統は、平成25年に開通したまだ新しいバス路線である。現在も、この路線を維持するべく、利用状況調査や広報活動など、地域の方々の取組が続いている。「柊野地域・市バス 37 号系統沿線だより」は、年にその背景には、西賀茂車庫以北の地域を走る公共交通がこれまでなかったことがある。地域の活性化、持続・2回発行される広報紙である。この資料を基に、可能な地域をつくるために、地域の人々がバス路線に込める思いを、11年にわたる取組から明らかにする。

新たなバス路線を開通させる背景として、地域の人々は誰の顔を思い浮かべてこの事業に取り組んでいたのか。また、バス開通後も、利用状況調査を実施し続けているのか。実際、調査の結果を踏まえ、増便、延伸要望が通り、さらに利用者数が増えている。一方で、利用者数が減れば、この路線が廃止される可能性もある。そのことを地域住民（生徒）は知っているのか、将来の地域の様子がどのように変わると考えるのか、見通してもらいたい。

今の西賀茂地域は、地域を支えてこられた多くの人々の粘り強い努力の積み重ねによって作られたものであり、当たり前にあるわけではない。市バス特37号系統が開通した背景にある地域の人々の思いを知り、地域を支えてこられた人々が、市バス特37号系統の維持・発展にどのような思いで取り組んでこれ、その思いを伝えたいと考えておられるのか、気づかせたい。さらに、郷土を大切にすることはどのようなことかについて考えるきっかけを持ってほしい。20年後、自分にとっての西賀茂の地域をどのように見通し、自分や地域に住む人と共に持続可能な地域づくりを考え、行動しようとする意欲を高めてほしい。

6 研究との関わりから

・ しなやか道徳の研究テーマ

「自らを律し、仲間とともに自己の生き方について考えを深め、よりよく生きようとする生徒の育成」

⇒ 自分の良心に基づき判断し行動する、また自分の行動に責任を持つという姿勢を養う。

7 授業構想（本時の授業と前後の道徳科の授業との関連や、他の教育との関連について）

12月のチャレンジ体験学習に向けて、学年の教師で「仕事をする上で大切なことは何か」をテーマに、総合的な学習の時間とのユニット学習に取り組んできた。

これまでに学年の教師が、挨拶、情熱、コミュニケーション能力、信頼、時間を守る、対応力、おもてなしの心、責任感に関する「持ち回り道徳」を行った。

また、計8時間の道徳の授業を経て、チャレンジ体験学習に向けた意気込みを書かせ、教室に掲示した。さらに、持ち回り道徳の前に「KiSS-18 (Kikuchi's Scale of Social Skills)」という社会的スキルをはかるアンケートを実施しているので、チャレンジ体験学習の終了後にも同じアンケートを実施して、自身の成長を確認している。

8 本時のねらい

地域の人々の特 37 号系統を代表とする公共交通整備に向かう思いや街づくりへの思いを通して、西賀茂地域に対する認識を深め、地域社会の一員としての自覚を持ち、地域の発展に寄与する態度を養う。

9 本時の展開（指導過程）

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応 (○基本発問 ◎中心発問)	指導上の支援・留意点 (●支援、○留意点)
導入 5 分	事前の取組として ① 事前アンケートに回答し、市バス特37号系統についての予備知識と認識を確認する。 (ロイロノートで「終野地域・市バス 37 号系統沿線だより」を資料提供)	○皆さん、市バス特37号系統を利用したことがありますか？ ・ある ・ない ほか	○授業前に GIGA 端末 (Forms) で事前アンケートに回答する。集計結果を基に、当日の授業での議論を行うための資料を準備する。 ○授業前に GIGA 端末を起動し、ロイロノートを開いておく。
	② 事前アンケートの結果を基に、市バス特37号	・意外にみんな、市バス特37号系統を利用しているのだな。	○挙手で答えさせる。(時間をかけない)

	系統についての予備知識と認識を全体共有するとともに、「なぜ」「どうして」と疑問に思ったことを発表する。 本時のめあて	(利用していないのだな) ・利用者数が減少すれば、減便したり廃止されたりする可能性が出てくることは知らなかった。 ・なぜ、市バステ37号系統は走るようになったのだろう？	
	なぜ市バステ37号系統は誕生したのか？ ～郷土を大切にするとはどういうことだろう～		
展開① 8分	③ なぜ誕生したのかについて、「沿線だより」を読みながら、地域の方のバスを利用できるようにしたかった思いや利用者数を増やしたい思い、さらには利用者数が減れば、減便・廃止の可能性あることを知る。	○なぜ市バステ37号系統は誕生したのですか？ ・地域に暮らす人々が、車が無くても安全に買い物に行けるようにするため。 ・通勤、通学のため。 ○もし、市バステ37号系統が無くなってしまったら、20年後の西賀茂地域はどうなっているだろう？ ・通勤、通学が不便になる。 ・車が無いと生活できないので交通の便利な地域へ引っ越しているかも。→街がさびれていく！ ・買い物などに行けなくなるので高齢者の生活が成り立たなくなる。→困る！	●「沿線だより」の内容について、教師が問いかける形で、内容を振り返る。 ●主にどこまで行けるようにしているのかな？だれのためかな？それはなぜかな？その結果どうなる？といった形で追発問することで、具体的な地域と地域のつながりを生徒にイメージできるよう支援する。 ○ロイロノートの「柊野地域・市バステ37号系統沿線だより」を読んで、それを根拠に考えを説明するよう促す。 ●「もし自分たちが使おうとしたときに」と投げかけることで、自分たちが次の進路に進むとき、校区外へ通学や通勤するときに利用するイメージができるよう支援する。(車で送ってもらえばよいという発言が出たときは、送ってくれる家族がその時間を他の事に使えば何ができる(儲けられる)と問い返し、「機会費用」の考え方を紹介する。
	※機会費用とは、「ある行動をとったとき、その行動によって得た利益と違う行動をしていれば手に入れていたであろう最大の利益との差額」のこと。		
展開② 20分	「沿線だより」を書いた、地域の方の思いは何ですか？		
	6 「沿線だより」を通して考えた「地域の方の思い」について(個人→4人班→)全体で交流する。(交流も含めて10分)	◎記事を考えるを通して考えた「地域の方の思い」とは何ですか？その理由も具体的に教えてください。 ・西賀茂をこれからも便利で安心して暮らせる街にしていきたい。人口がこれ以上減れば、いろいろ	○全体でできるだけ交流し、黒板にメモしていく。 ●思いについて共有した後、「自分なら何ができますか？」と問いかけることで、自分事として考えるよう呼びかける。

		ろな街の取組ができなくなる。 <u>○バス路線を開通させるとき、地域の人は、誰の顔を思い浮かべていたと思いますか？</u> ○みなさん、今日の皆さんの話を聞いて、自分なら何ができますか？	
あなたは「柊野地域・市バス 37 号系統沿線だより」の発行者です。 次号を発行するならどのような記事を書きますか？			
6	自分が「柊野地域・市バス 37 号系統沿線だより」の発行者として、次号を発行するならば、と仮定して、記事を考える。(10分) ・個人で考えてもよいし、4人班で考えてもよい。ロイロノートで提出でもよいし、ホワイトボードに書いて前で発表でもよい	○あなたは「柊野地域・市バス 37 号系統沿線だより」の発行者です。次号を発行するならどのような記事を書きますか？ ・中学生や高校生、京産大、立命館大や近隣に下宿する学生に向けて、荷物が多い時や雨が降っているときに使ってみませんか？ ・車で通勤している皆さんに向けて、バスの中でゆっくりしながら通勤できますよ。	○だれに対して主に書くのか。 課題は何か？ 伝えたいことは何か？ その理由は？(地域の方の思い、立場に立って) ●発行者(地域の方の思い)を想像しながら書くよう指導することで、目的意識(当事者意識)、相手意識、場面意識をもって書くことができるよう支援する。 ●全部は書けないので、「誰に対して」「課題・伝えたいこと」「その理由」が説明できるように準備するよう指導する。 ○時間をかけない。 ○時間をかけない。一方で、だれに対して、課題、伝えたいこととその理由を引き出し、地域の方の思いとして共有できるように追発問する。
7	発表する。		
記事を考えることを通して考えた「郷土を大切にすること」ということは？ ～20年後の西賀茂地域の課題とは？～			
終末 10分	8 本時の振り返り 記事を書く活動を通して改めて考えた「地域の方の思い」、そして「郷土を大切にすることとは」、さらには「20年後の西賀茂地域の課題」について、今日の学習を振り返りながら書く。(8分)	◎記事を考えることを通して改めて考えた「地域の方の思い」とは何ですか？そして、「郷土を大切にすることとは」、さらには「20年後の西賀茂地域の課題」について、今日の学習を振り返りながら、その理由も具体的に教えてください。 ・西賀茂をこれからも便利で安心して暮らせる街にしていきたい。 ・人口がこれ以上減れば、いろいろ	●黒板にメモされたことを参考にしよう声をかけることで、振り返りを支援する。 ●「地域の方の思い」「郷土を大切にすることとは」までは必ず書くように指導する。 ●振り返りを何名かに発表してもらおうことを予告しておく。

	9 自己評価(2分)	ろな街の取組ができなくなる。 ○みなさん、今日の皆さんの話を聞いて、自分なら何ができますか？ ※呼びかけであって。答えを求めなくてよい。 ○今日の学習を振り返って、自己評価をしましょう。	
--	-------------------	---	--

10 評価

地域の取組に関心をもち、地域社会の一員としての自覚を持ち、地域の発展に寄与しようとする道徳的実践意欲がみられたか。

11 板書計画

市バ斯特37号系統 **本時のめあて** なぜ市バ斯特37号系統は誕生したのか？
 ～郷土を大切にすることはどういうことだろう～



○なぜ誕生？

- ・車が無くて安全に買い物に
- ・通勤、通学のため

○もし、市バ斯特37号系統が無くなってしまったら
 20年後の西賀茂地域は？

- ・通勤、通学が不便
- ・車が無いと生活できないので交通の便利な地域へ引っ越しているかも。 →街がさびれていく！
- ・買い物などに行けなくなるので高齢者の生活が成り立たなくなる。 →困る！

○「沿線だより」を書いた、地域の方の思いは？

- ・西賀茂をこれからも便利で安心して暮らせる街にしていきたい。人口がこれ以上減れば、いろいろな街の取組ができなくなる。

【次号を発行するならどのような記事を書く？】
 だれに対して？課題は？伝えたい？理由は？

振り返り 「郷土を大切にすること」って何？

～20年後の西賀茂地域の課題とは～

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

「なぜ市バス特37号系統は誕生したのか？」

学習日 年 月 日

組 番 名前

柊野地域・市バス
特37号系統沿線だより

—第 号—

[発行者]

柊野自治連合会

[発行日]

令和 年 月 日

「市バス特37号」北まわり実現！
東にみんなで行きましょう！
柊野自治連合会

「郷土を大切にする」とは、ということだろう？

今日の授業を振り返って、感じたことを書いてみましょう。

本時の道徳「なぜ市バス特37号系統は誕生したのか？」について、ふり返ってみよう

1 教材について、興味をもって読めましたか？	A B C D
2 自分の考えを伝えることができましたか？	A B C D
3 友達の考えを聞くことができましたか？	A B C D
4 授業の内容について、深く考えることができましたか？	A B C D

A：意欲的にできた B：できた C：あまりできなかった D：できなかった